

## 参観授業の思い出

校長 武井 正明

明日は授業参観とPTA総会。お時間を作って来校してくださる予定の保護者の皆様、精一杯お迎えさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

自分にとって、忘れられない参観授業がある。

19年前4月15日、桜満開の明け方に母が亡くなった。その月末に参観授業があった。

その時の内容は短歌だった。

斎藤茂吉「死にたまふ母」

これは「其の1」から「其の4」まで全59首ある。作者が母親の危篤の報を受けて故郷に到着するまで、そして母が亡くなり、その後の心身の悲しさを癒していくまでが時系列の物語のように表現されている。

これを、このタイミングでやるのか…。

とても最後までやれる自信がなかった。きっと泣いてしまうかもしれない。

しかし…。

これは、おふくろがくれた試練なのかもしれない。今の、この自分だからこそ、そして親子と教師が共有できる参観授業だからこそ、斎藤茂吉をやるべきなのではないか。

そう考えることにして、絶対に泣くまいと心して授業に臨んだ。

### 死に近き母に添寝のしんしんと遠田のかはづ天に聞ゆる

まもなく亡くなるであろう母親の傍で添い寝をしながら、まるで田んぼの蛙の声が天国に導いていくような響きをもって聞こえてくる…

自分は母の死に目に会えなかったが、何度も授業で読んでいるこの短歌が、実感を伴って私の心に突き刺さった。最期くらいは傍にいてやりたかった…。

この参観授業で、同じ空間にいた親子は、何を感じ取ってくれたらろう。

それからしばらく経った頃…。

亡くなってから、母が毎夜夢に出てきてくれることを願ったが、一向に出てきてくれなかった。それが、諦めかけていた四十九日の夜、ようやく私が参観授業をしている廊下から、優しく微笑んでいる母に会うことが出来た。

そして、現在。

笑顔が可愛い吉中の子どもたちを、母に見せてやりたい気持ちでいっぱいです。